

航空機用DHDP S強化



小西 弘矩 社長

和歌山の化学業界の中でも、積極的に設備投資に挑戦する企業として注目を集めるのが小西化学工業である。スーパーエンブラ・ポリエーテルスルホン（PESE）樹脂の原料となるジドロキシジフェニルスルホン（DHDP S）の供給を経営の主軸に据える同社は昨秋、ポインク社の旅客機B787採用の日本製CFRP向けエポキシ樹脂を受託生産する福井工場内に年産能力3000トンのDHDP S棟を新設した。和歌山市小雑留の本社工場でも試作専用棟の建設が具体化しており、金融関係などの化学業界ウォッチャーもマークする気鋭の企業として顧客の評価は年々高まっている。

同社独自のスルホン化技術を投入し1968年、事業化に成功したのがDHDP Sである。72年には世界で初めて高純度技術を確立。PESE樹脂を開発した英国化学大手ICIが小西化学の製造プロセスを採用しPESEの製造を始めたことでDHDP S事業が一気に開花した。

PESE樹脂は今、航空機や自動車、そして水処理膜、医療関係などさまざまな分野で高機能樹脂として脚光を浴び、DHDP Sの市場拡大にも期待が集まっている。本社工場のDHDP S設備（年産能力3600ト）はフル稼働の状態。新工場の本格稼働を受けDHDP Sで年商20億円を目指している。小西弘矩社長は福井工場を案内しながら、福井の新工場は「TやI（モノ）のインターネット」を活用し省力・省人化を実現するスマート工場のモデルとしたい」と力を込めた。

試作棟の建設工事も目前に迫り、第一弾として次世代シリコン樹脂・ポリシリセスキオキサン（PSQ）を生産することが決まった。スルホン化という伝統技術をベースに、どう業態を変異させるのか。各部署の専門家が社長室に集められ事業立案が始まっている。



福井工場に完成したスーパーエンブラ原料専用のプラント。エンブラ原料はCFRP用樹脂に続く新事業として成長が期待されている

<p>品名: DH-DHDP S-1000</p> <p>規格: JIS K 6821</p> <p>用途: 航空機用CFRP</p>	<p>品名: DH-DHDP S-2000</p> <p>規格: JIS K 6821</p> <p>用途: 航空機用CFRP</p>	<p>品名: DH-DHDP S-3000</p> <p>規格: JIS K 6821</p> <p>用途: 航空機用CFRP</p>
<p>品名: DH-DHDP S-4000</p> <p>規格: JIS K 6821</p> <p>用途: 航空機用CFRP</p>	<p>品名: DH-DHDP S-5000</p> <p>規格: JIS K 6821</p> <p>用途: 航空機用CFRP</p>	<p>品名: DH-DHDP S-6000</p> <p>規格: JIS K 6821</p> <p>用途: 航空機用CFRP</p>

※ 詳細な仕様書は弊社ウェブサイト（www.konishi-chem.co.jp）をご覧ください。

※ 納入先: 和歌山市小雑留、福井県福井市、東京都港区

※ 問い合わせ: 074-422-1111

航空機用CFRPの強化に不可欠なDHDP S

高純度技術を確立し、世界で初めて

スーパーエンブラ原料専用のプラント

成長が期待されている新事業

和歌山市小雑留

福井県福井市

東京都港区

074-422-1111